

第44回 全国精神保健福祉業務研修会 in 静岡

昭和、平成から令和に繋げていきたい、自治体職員の「和」

日程：令和2年2月1日（土）・2日（日）

会場：静岡市葵生涯学習センター アイセル2 1（静岡市葵区東草深町3番18号）

1日目

講演1 精神保健・医療・福祉・施策の動向と行政の役割

講演2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築するために

シンポジウム 自治体職員としての専門性について考える

基礎講座 基礎から学ぶ精神保健福祉業務

～相談支援の基本から資料の調べ方まで～

2日目

分科会1 「措置入院者等の退院後支援の実践と課題」

分科会2 措置入院者の退院支援の必要性について」

分科会3 「アディクション関連問題について考えてみよう」

分科会4 「精神保健福祉における権利擁護とは」

分科会5 「多機関・多職種チームで支える 精神保健アプローチ」

定員：300名（先着順）

対象：精神保健福祉業務に従事する自治体職員

参加費：会員4,000円 非会員10,000円（資料代含む）

申込期間：令和元年11月25日（月）～令和元年12月27日（金）必着

※定員に達し次第、締め切ります。

問合せ：研修会事務局 E-mail kensyu@zenseisou.ciao.jp

主催 全国精神保健福祉相談員会

後援 厚生労働省 静岡県 静岡市 浜松市 全国保健所長会 全国精神保健福祉センター長会

1日目 2月1日(土) 受付開始 10:00~ 開会式 10:40~ (1階 ホール)

講演・シンポジウム(定員300人)	会場 1階 ホール 11:00 ~ 12:00
	講演1 「精神保健・医療・福祉施策の動向と行政の役割」 講師 寺原 朋裕(厚生労働省 社会援護局 障害保健福祉部精神・障害保健課 課長補佐) 最近の精神保健福祉施策の動向や今後の方向性について講演いただきます。
	会場 1階 ホール 13:30 ~ 16:30
	講演2 「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築するために」 講師・シンポジスト 松本 晃明(静岡市保健衛生医療部理事、こころの健康センター所長/静岡県) コーディネーター 保科 志貴子(新潟県精神保健福祉センター) 国から精神障害にも対応した地域包括ケアシステムが示され、各自治体において精神保健福祉施策の主要事業として取り組まれています。直近では、平成30年3月、「措置入院の運用に関するガイドライン」、「地方公共団体による精神障害者の退院後支援に関するガイドライン」が示される等、様々な施策に対し、私たち自治体職員が何に着眼していくか考える機会としたいと思います。 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築するためには、社会問題(8050問題、高齢化・核家族化、ひきこもり等)を捉えることが大切になります。近年、多様化する行政課題に柔軟に対応する自治体職員としての専門性について一緒に考えましょう。 シンポジウム 「自治体職員としての専門性について考える」 指定発言者 藤井 千代(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部長) シンポジスト 荒田 稔(全国精神保健福祉相談員会 相談役・社会福祉法人なごみの郷/石川県) 松山 とも代(豊中市保健所/大阪府)

基礎講座(定員90人)	会場 4階 研修室 11:00 ~ 16:30	※当日は、はじめに1階ホール前で参加受付をしてください。 開会式(10:40~ 1階ホール)終了後に開催します。
	基礎講座 「基礎から学ぶ精神保健福祉業務~相談支援の基本から資料の調べ方まで~」 講師 中村 征人(愛知県一宮保健所)、岡本 秀行(川口市保健所/埼玉県) 柳川 正賢(中央法規出版株式会社第一編集部) 「相談の受け方がわからない」「資料の調べ方がわからない」こんなことはありませんか?精神保健福祉業務に就いた初任者を対象に、事例の見立てや面接や記録の技術、精神保健福祉に関する資料やデータの収集方法など、精神保健福祉に関する基礎的なことを学びます。「今さら聞けないこと」を学びたい経験者の方のご参加も大歓迎です。みなさんで1から基礎を学びましょう。	

2日目 2月2日(日) 開場時間 9:15~

※分科会により、時間が異なりますのでご注意ください。

分科会1(定員300人)	会場 1階 ホール 9:30 ~ 12:00
	実践報告「措置入院者等の退院後支援の実践と課題」 助言者 藤井 千代(国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域・司法精神医療研究部長) 報告者 山田 貴子(静岡県障害福祉課) 松下 望(浜西市障害保健福祉課)、上田 京華(静岡市精神保健福祉課) 静岡では、県と政令指定都市が連携し『オール静岡』体制を構築し、入院中からの精神障害者支援を一体的に取り組んでいます。『オール静岡』による取り組み経過について実践を踏まえ報告します。

分科会2(定員100人)	会場 4階 研修室 13:30 ~ 15:00
	グループワーク「措置入院者等の退院後支援の必要性について」 厚生労働省から「地方公共団体による精神障害者の退院後支援に関するガイドライン」が発出されて約1年半が経過しました。皆様の自治体では同ガイドラインを活用されていますか?また、運用上の課題も見えてきているかもしれません。各自治体での実践を振り返り、「どうすれば運用しやすいものにな

	るか」参加者全体で共有する時間が出来ればと思います。
分科会3 (定員60人)	会場 4階 研修室 9:30～12:00
	<p>実践報告・意見交換 「全員集合！アディクション関連問題について考えてみよう！！」</p> <p>シンポジスト 前園 真毅（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター／神奈川県） 河佐 勉 （大阪保護観察所／大阪府） 上田 勲 （豊中市保健所／大阪府） 山縣 正雄（埼玉県立精神医療センター）</p> <p>コーディネーター 佐々木 英司（全国精神保健福祉相談員会） 佐藤 周 （滋賀県立精神医療センター）</p> <p>平成26年度のアアルコール健康障害対策基本法施行に始まり、薬物使用等の罪を犯した者に対する刑の一部執行猶予に関する法律、ギャンブル等依存症対策基本法等が施行され、依存症対策は近年注目される施策の一つとなりました。</p> <p>依存症を抱える者とその家族だけでなく、依存症の疑いやリスクのある者も対象として支援体制の全国的な整備が図られていますが、スティグマの問題等未だ途上であり、行政機関が担う役割は大きくなっています。何故、依存症対策がようやく注目されるようになってきたのでしょうか。我々行政機関に所属する者に求められていること、やるべきことは何なのかについて、現場からの実践報告を踏まえ、ワールドカフェ方式にて考えます。</p>

分科会4 (定員30人)	会場 1階 ホール 13:30～15:00
	<p>講演 「精神保健福祉における権利擁護とは ～障害者虐待事案を通して考える～」</p> <p>講師 谷口 泰司（関西福祉大学 社会福祉学部教授）</p> <p>司会 松岡 信一郎（和歌山市保健所／和歌山県）、藤井 宏昭（姫路市役所／兵庫県）</p> <p>精神保健福祉を地域展開する自治体職員が、日々の業務として精神保健相談や地域移行支援を行う際、本人主体の支援を考えるにあたって制度や仕組みとしての課題や疑問は少なくありません。</p> <p>自治体職員として、考えておく権利擁護とは何なのか…。2018年に兵庫県三田市で起きた障害者虐待事案を通じ、障害者本人だけではなく、家族支援も含めた支援のあり方について、講演を通じて考えていきます。</p>

分科会5 (定員90人)	会場 3階 第31集会室 午前の部9:30～11:30 午後の部13:00～15:00
	<p>実践交流 「孤立する当事者・家族。多機関・多職種チームで支える精神保健アプローチ ～私たちが早期につながる！地域を変える！私も変わる！～」</p> <p>午前の部：助言者 野口 正行（岡山県精神保健福祉センター長） 報告者 柴原 彩子（長崎県時津町役場／長崎県） 本望 敦子（川口市保健所地域保健センター／埼玉県） 齋藤 真哉（埼玉県草加保健所）</p> <p>午後の部：コーディネーター 山本 賢（飯能市役所／埼玉県） 運営スタッフ 全精相地域包括ケアワーキンググループ</p> <p>昨年度から開始したこの分科会ですが、今年は午前（実践報告）と午後（グループワーク）と1日通して企画しました。午前は「地域での生きづらさを抱える事例」や「地域包括支援体制」の実践報告、午後は事例を通して互いのネットワークを語り合い、学び合う実践交流の場です。個別支援を通じた地域課題の抽出方法や解決に向けた動き、多領域協働の「地域包括ケア体制」のあり方について、精神保健の視点から考える機会としたいと思います。全精相ならではの「協議の場」から多くの気づきを得て、地域に持ち帰りましょう！</p>

懇親会「COUPOLE（クーポール）」

日時 2月1日（土）

18:00～

場所 静岡市葵区紺屋町2-2

会費 ¥6,000円

※事前申し込みが必要です

会員総会のご案内

日時 2月2日（日）15:30～

会場 1階 ホール

会員の方はご参加ください。

参加できない場合、別途送付した総会案内に同封の委任状をご提出ください。